

令和5年度第4回市民活動推進委員会 全体協議グループ分け

団体運営スタッフや参加者を増やす（呼び込む）ために実践（または意識）していること・意見など

		NPOの分類分け		
		サークル活動	ボランティア活動	事業型
	ねらい	仲間や自分たちの健康増進や生きがいづくり、楽しみを作る 地域の中で多くの方々に参加してもらうことで、地域を豊かにしていく	主体性・自発性があること 他者性（他人や地域の役に立っていること） 無償であること	経済的な意識も考えながら、自主事業を実践 活動を継続・発展していくためには、地域や社会に求められることも大事 にしながら活動
	特徴	経済性を優先するよりも生きがいや楽しみ、仲間づくりといった公益性を 重視しながら運営	自分たちや仲間が地域や社会、他人のために何が出来るか、奉仕的な視点を含め た貢献活動 ボランティアの原点にあるのは無償であるという観点 ただ、有償ボランティアを含め、団体や活動を継続するうえで、一定程度の対価 を求めることも大切だが、必ずしもそれを優先しているわけではない	経済的な自立・発展・継続を意識していく活動
活動に参加 してほしい 年齢層	若者 (10～30代)	①	②	③ 若手の人に積極的に声をかけ、介入しながら若手の人に任せる
	子育て世代 (20～40代)	④ スタッフの活動を一定期間見てもらい、雰囲気を感じてもらい 全てを丸投げするのではなく、みんなで併走する 自主性を重んじながら、その人の得意を見つけてもらい、そこで生きるよ うな自分を発見してもらう時間を設ける 一緒に進めていく（併走していく）中で、ある程度したら、一歩引いてひ とり立ちできるように流れを作る	⑤	⑥
	中高年世代 (40～50代)	⑦ 活躍しそうな人材を団体にいかに引き込むか 名誉的・金銭的にやる気を起こす	⑧	⑨
	高齢者世代 (60代以上)	⑩ 活躍しそうな人材を団体にいかに引き込むか 名誉的・金銭的にやる気を起こす	⑪ 人生が長くなったことや定年延長などにより、今までのターゲットの年齢層より 高い世代に声をかけていく必要がある	⑫
	全世代	⑬ 世代に合わせたイベント内容を実施	⑭ やりたい分野・得意分野に応じて参加できる雰囲気づくり 発言したくなるように日頃から様々な声掛け お試しの機会を設ける スタッフの適材適所を大切にしており、その結果、スタッフ自身が参加しやすい 環境に繋がっている	⑮ 敷居を下げて、いろんな人に入ってもらうしやすいような環境をつくる 定期的に達成感のシェアを図る
	一代限り	⑯ 専門的なものづくりの経験があるメンバーで運営しているため、全く同じ活動を引き継ぐことは難しい すべての市民活動が必ずしも世代交代を望んでいるわけではない		

①～⑯共通	活動をいかに知ってもらうかの広報 みんなが協力できる、自分の仕事に魅力が持てるように 参加者が運営側にある程度スライドしていかないと団体としては維持出来ない どのような活動であるにしろ、持続していくためには新しい人が入ってこないといけない どうやって新しい人に興味を持って参加してもらうかが世代の幅を広げるということとニアリーイコールではないか
-------	--